

出原さんを悼む

堀田明裕

平成20年7月26日、出原栄一氏が御逝去されました。出原栄一氏はこの数年間病生活を続けてこられました。時折のお見舞いでの様子では、デザインやその研究について病床からまだまだ我々を叱咤激励していただけるものと思っていました。そのような中、この訃報はあまりにも突然で悲しく、また、残念なものでした。平成18年には明石一男先生、寿美田興一先生と我が国デザイン界の長老を続けて失い、更にこの度出原栄一氏の訃報は、我が国のデザイン学研究や教育にとって大きな痛手であると同時に、デザイン学研究創成期の終焉を感じるものでした。

出原栄一氏が率いた産業工学試験所(後の製品科学研究所)デザイン課の研究チームは、家族のような繋がりでは結ばれていました。出原栄一氏はこのチームの一番上の兄のような存在で、親しく尊敬できる方でした。そのため、以下では「出原さん」と呼びます。

出原さんは1929年大阪河内にお生まれになり、1953年東京大学文学部美学美術史学科を卒業後、同大学院人文学科美学美術課程に進まれました。1957年に通商産業省工業技術院産業工学試験所に入所され、デザインに関する実験や調査に携われました。1963年に1年間アメリカ・スタンフォード大学に留学、1967年から約2年間デザイン行政への支援と言う形で本省検査デザイン課に出向され、その後、デザイン課の課長として御自身の研究を進められると同時に、私共の研究や所外の若い研究者達のリーダーとして研究指導にも専心されました。その後、首都圏における通商産業省傘下の全研究所が筑波研究都市への移転に際して職を辞され、1979年から北海道東海大学芸術工学部教授として6年間、1987年からは大阪芸術大学芸術学部デザイン学科及び大学院教授として12年間デザインの研究と教育に携われました。また同時に、日本デザイン学会評議員、理事、副会長、名誉会員、日本記号学会会員、

惜別、出原栄一先生



形の科学会理事、財団法人工芸財団評議員、理事を歴任されました。これらの御経歴は、出原さんが如何に多様な視点からデザインに関わってこられたかを物語っています。

出原さんは、我が国の工芸産業振興を目的に設立された工芸指導所が、昭和27年産業工学試験所と改組・改名され、工業製品全般にわたるデザインの思想とその質的向上等へ研究がシフトし始めた時代に入所されました。当時は、先の大戦で荒廃した我が国の産業基盤がやっと再構築されて新たな進展に入る時期であり、デザイン分野においても、アメリカから導入された工業デザインの考え方が徐々に我が国産業界に浸透し始めた時期でした。この時期、アメリカ留学を終えた出原さんは、「現代デザイン理論のエッセンス・歴史的展望と今日的課題:共著、ペリかん社、1971」の中で、アメリカ19世紀の思想家グリノーやノーマン・ベル・グデス等のアメリカ初期の工業デザイナーを取り上げ、アメリカ工業デザインの発生とその展開を解説され、我が国の工業デザインの方向を示唆されています。工業デザインの思想が産業界に浸透するに従い、国立の研究所としてデザイン研究を今後どのような方向に進めて行くかが問われ始めました。その方向の一つとして、家具什器の使い方を中心とした生活研究でした。当時史上最大の調査と新聞で取り上げられた、家具を中心とした公団住宅の住まい方調査が出原さんの指揮のもとに行われました。この調査は今後どのような住空間と家具が必要となるか等工業製品を

視点とした生活デザイン研究の先駆けでした。本省検査デザイン課出向から戻られた後には、当時社会的には揺籃期にあったコンピュータをデザイン研究に導入することを提唱され、下丸子の建物の奥に、富士通FACOM230-35等を導入されました。当時はコンピュータをどのように使いこなして行くか自体が社会的にも暗中模索の時代でした。そのため、出原さんはコンピュータを所内だけではなく外部の大学等の若手研究者、あるいは、絵画や音楽関係の若手芸術家にも広く解放し、その研究・利用方法について自由な研究討論ができる研究会を開催され、我が国のCG研究者・デザイナーの育成に多大な貢献をされました。その時のメンバーであった大平智弘氏(現武蔵野美術大学)、源田悦夫氏(現九州大学)、川口洋一郎氏(現東京大学)等の方達が現在も多く現場で活躍されています。また、出原さん自身もCGに関する論文や作品を制作され、大学へ異動された後も1960年代から始めた形態シミュレーションをデザインに応用した「コンピュータグラフィック・樹木:築地書館、1983」を記され、また、「図の体系-図的思考とその表現-:共著、日科技連、1986」では日刊工業新聞社技術科学図書文化賞を、「日本のデザイン運動・インダストリアルデザインの系譜:ペリかん社、1989」では第3回勝見勝賞、第17回国井喜太郎産業工芸賞、更に、日本デザイン学会功労賞(1993)、第12回形の科学会賞(2006)等を受賞され、デザイン研究者として輝かしい業績を残されました。

以上のように出原さんはデザイン研究者として優れているばかりでなく御自分には厳しい一方、若い人達のために自由な研究環境を作り、その考えや意見を暖かく育てられました。そのお人柄は、良き時代の研究指導者の理想像とも言えました。この度その方を失ったことで、デザイン研究の良き時代の終焉をひしひしと感じる次第です。出原さん享年79歳、御冥福をお祈り申し上げます。

平成 20 年度第 3 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 27 日（金）
11：30～12：40
場 所：広島国際大学 東広島キャンパス 2 号館 8 階「さくら」の間
出席者：青木（弘）、蓮見、尾登、青木（史）、君島、工藤、國本、久保、杉山、田村、坪郷、長谷、生田目、野口、原田、古屋、松岡、村上、渡辺、國澤、寺内、小野
委任状出席：青木（幹）、阿部、荒井、伊豆、岡田、岡本、河原林、黒川、小林、梨原、降旗、宮崎、山中
欠席者：勝浦
名誉会員：高橋、寺澤

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介

青木会長より名誉会員の紹介がなされ、ご出席いただいた高橋名誉会員と寺澤名誉会員より挨拶がなされた。

3. 平成 20 年度第 2 回理事会議事録の承認 (寺内本部副事務局長)

平成 20 年度第 2 回理事会の議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

4. 平成 20 年度秋季企画大会について (古屋企画委員)

古屋企画委員より、平成 20 年度秋季企画大会案が示され、資料に基づいて詳細な内容の説明がなされた。また学生プロポジションの取りまとめを勝浦理事と下村氏に依頼した旨の報告がなされた。審議の結果、秋季企画大会案が原案通り承認された。

5. 新設部会について

(國本理事)

古屋研究推進委員会委員長より、バイオメディカルデザイン研究部会の新設を研究推進委員会で審議し、研究部会新設を認めた旨の報告がなされた。ついで國本理事より、資料に基づいてバイオメディカルデザイン研究部会の内容や活動方針案についての詳細な説明がなされた。審議の結果、バイオメディカルデザイン研究部会を設立することが承認された。

6. キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008 について (國澤本部事務局長)

國澤本部事務局長より、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会から「(第 2 回キッズデザイン・アイデアコンペ) キッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008」への協力依頼がなされている旨の報告があり、資料に基づいてコンペティションの目的や応募・審査プロセスなどの詳細な説明がなされた。審議の結果、学会としてキッズデザイン・プロスペクティブ・コンペティション 2008 に協力することが承認された。

7. 横幹連合と学協会の連携について (青木会長)

青木会長より、横幹連合から当学会に横幹連合と連携するプロジェクトの提案や横幹連合学術国際委員会への委員推薦が要請されている旨の報告がなされた。審議の結果、横幹連合と連携を強化していくこと、横幹連合の学術国際委員会に委員を推薦することが承認された。

8. 会員の移動について

(小野本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会 25 名(うち外国人 8 名)]、[退会 7 名] が承認された。

【報告事項】

9. 第 55 回研究発表大会の発表件数と グッドプレゼンテーション賞選考について

(工藤概要集編集委員長)

工藤概要集編集委員長より、第 55 回研究発表大会の発表件数が口頭発表 150 件、ポスター発表 35 件の計 185 件である旨の報告がなされた。またグッドプレゼンテーション賞の選考は昨年と同様の方法とすることが確認された。

10. 第 55 回研究発表大会について

(井上大会実行委員会委員長)

井上大会実行委員会委員長より、大会会場の一部変更とエクスクーショの予定変更、懇親会の参加予定人数について報告がなされた。また多くの会員に懇親会への参加を促すよう要請された。

11. 第 2 支部の活動について

(君島第 2 支部支部長)

君島第 2 支部支部長より、第 2 支部の研究会を 9 月 13 日(土) 午後 12 時に東芝科学館で開催する旨の報告がなされた。

12. 学会各賞候補の推薦について

(松岡学会各賞推薦委員会担当理事)

松岡担当理事より、学会各賞の審査委員長を宮崎監査にお願いした旨の報告がなされた。加えて、7 月 18 日の学会各賞推薦書締切まで時間的な余裕が少ないため協力してほしいとの要請がなされた。

13. 九州大学新大学院について

(田村第 5 支部副支部長)

田村第 5 支部副支部長より資料が配布され、2009 年 4 月に九州大学では新大学院「統合新領域学府ユーザー感性学専攻」を設置予定である旨が報告された。

14. デザインシンポジウム 2008 について

(松岡デザインシンポジウム 2008

担当理事)

松岡担当理事より、11 月 21 日(金)、22 日(土)に慶応義塾大学矢上キャンパスにおいてデザインシンポジウム

ム 2008 が開催される旨の報告がなされ、資料に基づいて内容の詳細な説明がなされた。

記録：寺内

平成 20 年度第 4 回理事会議事録

日 時：平成 20 年 10 月 4 日（土）
15：30～17：30
場 所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス B 会議室
出席者：青木（弘）、蓮見、尾登、河原林、長谷、梨原、野口、古屋、國澤、寺内、小野
委任状出席：山中、渡辺

1. 会長挨拶

青木会長より挨拶がなされた。

2. 平成 20 年度第 3 回理事会議事録の承認 (寺内本部副事務局長)

平成 20 年度第 3 回理事会の議事録案が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 学会各賞選考結果について

(青木学会各賞選考委員)

宮崎学会各賞選考委員長の代理として、青木学会各賞選考委員から、平成 20 年度学会各賞の推薦状況、選考結果、選考事由について報告がなされた。審議の結果、原案通り、研究奨励賞 2 件、年間論文賞 2 件の受賞が承認された。続いて青木委員から、宮崎委員長は、今回自薦があったので今後も自薦を増やしたい、また会員の各賞への推薦を積極的に行ってもらいたいという意向である旨の報告があった。最後に今年度より学会各賞の推薦を行った会員に対し、学会各賞推薦委員会から最終選考結果を送付する旨が報告された。

4. 秋季企画大会について

(尾登大会実行委員長)

尾登大会実行委員長より、資料に基づき、平成 20 年度秋季企画大会案についての詳細な説明がなされた。審議の結果、大会案が原案通り承認された。また尾登大会実行委員長に加えて青木会長からも、学生プロボジションへの積極的な参加が要請された。

5. IASDR board member の推薦について (青木会長)

青木会長より、IASDR から日本デザイン学会に 5 名の board member を推薦するよう依頼されている旨の報告があった。審議の結果、青木会長、蓮見副会長、尾登副会長、杉山担当理事、山中担当理事を IASDR の board member に推薦することが承認された。

6. 学生会員について

(野口財務委員会委員長)

野口財務委員会委員長より、学生会員の開設について提案がなされた。審議の結果、今後は財務委員会と企画委員会が協力して学生会員の開設について検討を行うこととなった。

7. 横幹連合会員学協会間での相互協力について

(青木会長)

青木会長より、横幹連合から検討が依頼されている会員学協会間での相互協力案について、資料に基づいて説明がなされた。審議の結果、横幹連合より提示された案に賛同することが承認された。また横幹連合学術国際委員会委員に古屋研究推進委員会委員長を推薦することとなった。

8. 会員の移動について

(小野本部事務局幹事)

本部事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[入会：正会員 19 名（うち外国人 5 名）、賛助会員 1 件、年間購読 1 件] と [退会：正会員 10 名、賛助会員 2 件、年間購読 1 件] が承認された。

【報告事項】

9. 学会誌編集・出版委員会活動報告
(河原林学会誌編集・出版委員会委員長)
河原林学会誌編集・出版委員会委員長より、資料に基づいて各号の進捗状況について報告がなされた。

10. 春季大会会計報告

(井上大会実行委員会委員長)

(代理) 國澤本部事務局長)

井上大会実行委員会委員長の代理として、國澤本部事務局長から、平成 20 年度春季大会の会計報告がなされた。

11. デザインシンポジウム 2008 について (松岡担当理事)

(代理) 國澤本部事務局長)

松岡担当理事の代理として、國澤本部事務局長から、11 月 21 日（金）、22 日（土）に慶應義塾大学矢上キャンパスにおいて行われるデザインシンポジウム 2008 のポスター案が示され、各大学へ掲示することが要請された。

12. 福井工業大学工学部デザイン学科開設記念シンポジウムへの協賛について

(蓮見副会長)

蓮見副会長より、10 月 5 日に福井工業大学が主催するデザイン学科開設記念シンポジウムに学会として協賛することとした旨の報告があった。

13. 作品集の審査状況について

(長谷作品集審査・

作品集編集委員会委員長)

長谷作品集審査・編集委員会委員長より、作品集の第一次審査が終了し、24 件が第一次審査を通過した旨の報告があった。

記録：寺内

平成 20 年度 秋季企画大会報告

大会実行委員会
委員長 尾登 誠一

「デザインから発想されたロボットたち」

期日：平成 20 年 11 月 1 日（土）

会場：東京藝術大学上野キャンパス

午前の部：招待講演

午後の部：ロボット自慢

学生プロポジション

平成 20 年度の秋季企画大会は、急速に拡大発展を遂げつつあるロボットに焦点をあて、デザインという視点から発想するロボットとは何かを再考する趣旨から企画された。大会は、青木会長から、今日のテーマとしてあるロボット開発にデザイン領域から問題提起し、近未来的な社会的要請へ応える必要性と意義についての挨拶があった。次に平成 20 年度学会各賞授賞式が行われ、選考委員会代理として國澤本部事務局長から選考経緯の報告があった。

・研究奨励賞：「マクロ形状情報の解明とデザインへの応用」氏家良樹氏、
「ドイツ文化圏における磁器産業デザイン振興」長井千春氏

・年間論文賞：「今井和子と自由学園工芸研究所にみるモダニズム期日本の工芸産業」菅靖子氏、「Innovation of Local Culture and Value」Shyu-der UENG 氏、宮崎清氏

秋季大会は、学会が社会とのつながりのなかでテーマ化すべき局面にフォーカスし、これに向けたデザインの指標を確認、問題点や解決策の糸口を探索し、情報発信する機会でもある。この立脚点のもと、研究推進委員会の古屋委員長から、テーマ設定にいたる文脈解説があった。それは日本の歴史的経緯からみるロボットの変遷であり、アニメーションの鉄腕アトムや飛行機の事例紹介を通して、アトムパラダイム後のロボットとはどのようなものかの議論とこれを指標としたデザイン挑戦の可能性や必要性がオープニング・プレゼンテーションとしてあった。

午前の部は、大会テーマに即して二

つの招待講演による興味深い話題提供があり、さらにロボットとは何かという視点を参加者に共有させた。一つは長田純一氏による「演劇的ロボットデザイン」という講演であり、氏が関わったパーソナルロボット「PAPER0」開発のテーマである。それはコミュニケーション機能やロボットと人間とのインタラクションデザインのありようについての話であった。二つめは、黒河治久氏による「モジュール型ロボット」-「M-TRAN」という講演である。最小限の機能をもったコンピューター搭載のモジュールが、みずから結合を変えながら全体を創り上げることをめざしたロボットは、従来のトップダウンアプローチ（プログラム制御）のものと異なり、環境情報を読みながらボトムアップアプローチし、可動するデザインであり、次世代型ロボットを予感させ興味深かった。これらアトムパラダイムを超えるべく自由に発想・現実化された PAPER0 と M-TRAN は、前者がロボットと人間とのインタラクティブなコミュニケーション機能を搭載するのと異なり、後者は、多様な環境のなかで情報を読みながら可動するアフォーダンス的(?)ロボットという点で対照的であり、これからのロボットのありようを示唆して興味深かった。

午後の部は、展示スペースを利用して 12 点のロボットの実演及びスクリーンプレゼンテーション「ロボット自慢」の競演であった。

1. Nissan PIV02 搭載 Robotic Agent
日産デザインセンター
2. M-TRAN (Modular Transformer)
産業技術総合研究所、東京工業大学
3. 社会-技術的ネットワークとしての
ロボットデザイン / NEC、武蔵工大
4. 屋外での情報収集を目的とした自律
型飛行ロボット [X-UFO] / 千葉大学
5. バイオインタフェースロボット
千葉大学
6. 身体ねじりを表現する鑑賞支援ロボ
ット / 筑波大学
7. COLOLO- 1 bit コミュニケーション
筑波大学

8. 脚車輪ハイブリッド移動体
“Roller-Walker” / 東京工業大学
9. ロボットの皮膚・肉質開発プロジェ
クト “macket” / 東京大学
10. Media Robot+Personoid Robot
拓殖大学
11. 気配のロボット-小児入院用サー
クルベッドの為のロボット / 拓殖大学
12. しゃべる人工物-キャラクタをもっ
た人工物とユーザとのインタラクシ
ョンデザイン / 多摩美術大学

学生の構想力というテーマのもと、各大学が日頃の成果を持ち寄り交流する学生プロポジションは、今回 51 点という多数の作品及びパネル参加があった。また本大会では、選考委員会による展示・プレゼンテーション審査が行われ、長谷委員から 6 点の優秀作品の発表が展示会場にて行われた。本大会を通し、実行委員長として最も印象に残るのは、若い学生達のエネルギー溢るデザインへの眼差しであり行動であった。懇親会はアトム世代を超えて自由にデザインを語る青い声が快かった。大会に関った関係各位に感謝し、盛況な大会であったことを報告させていただきます。



ロボット自慢の展示風景



学生プロポジション

学生プロポジション優秀賞受賞作品
6点は下記のとおりです。

- ・「片手キッチンツールー野菜を切ろう」
藤原 康寛, 尾滝 啓介, 杉山 文野,
鈴木 偵之, 許 芝娟 (千葉大学)
- ・「母子手帳の電子化・携帯端末用
アプリケーションの提案」
深井 将史 (千葉工業大学)
- ・「シカクいECO皿～環境配慮材料を
用いたテーブルウェアのデザイン～」
越山 才, 佐久間 伸幸 (拓殖大学)
- ・「音環境による生活文化への影響と
聴覚刺激を主とする情報の判断」
金子 恵美 (愛知県立芸術大学)
- ・「dentaleco」
川島 理恵 (東京芸術大学)
- ・「diet case」
清水 浩二 (東京芸術大学)

デザインシンポジウム 2008 報告

運営委員会委員長 松岡由幸
平成20年11月21日(金),22日(土)
の両日に渡り,慶應義塾大学理工学部
矢上キャンパスを会場として,日本デ
ザイン学会(幹事学会),日本機械学会,
日本設計工学会,日本建築学会,精密
工学会,人工知能学会の共催によるデ
ザインシンポジウム2008が開催されま
した。本シンポジウムには,デザイン
に関わる研究・教育者,実務者,学生
を含む200名近くの方々にご参加いた
だき,2日間の日程において,2件の
招待講演,1件のパネルディスカッショ
ン,19のセッションにおける合計104
件の一般講演が行われました。

初日の午後,はじめに,日本デザ
イン学会会長の青木弘行先生によるご挨拶
が行われ,本シンポジウムに至るこ
れまでの経緯,デザイン科学を構築す
る必要性,さらに,各学会が連携する
ことによる今後の発展についてお話を
いただきました。
つづいて,慶應義塾大学大学院メディ
アデザイン研究科委員長の稲蔭正彦先

生による,「メディアデザイン進化論」
という演題での招待講演,ならびに,
NAOTO FUKASAWA DESIGN 代表の深澤直
人先生による,「見えない関係を形にす
る」という演題での招待講演が行われ
ました。お二人には,ご自身の作品紹
介等を交えながら,デザインに対する
様々な思いを述べていただきました。
そして,松岡による司会のもと,各共
催学会代表者(村上存先生,綿貫啓一
先生,門内輝行先生,田浦俊春先生,
武田英明先生)によるパネルディスカッ
ションが行われ,パネラの方々による
講演につづき,「デザイン科学の枠組み」
をテーマとした議論が展開されました。
また,初日の夕方には懇親会も開かれ,
一部の参加者の方にデザインに関する
様々な話題提供をいただきつつ,専門
の異なる様々なデザイン分野の方々
による活発な交流が行われました。

初日の午前と2日目の終日にわたり,
19のセッションにおける一般講演が行
われました。本シンポジウムの一般講
演では,「デザイン理論」,「デザイン方
法論」,「デザイン方法」,「デザイン実
務」,「デザイン知識」などのような領
域横断的なセッション構成としたこと



青木弘行会長によるご挨拶の様子



稲蔭正彦先生による招待講演の様子



パネルディスカッションの様子



懇親会の様子

もあり、全 104 件の講演において、専門に関わる詳細な議論に加えて、さまざまなアспектからの有意義な議論が展開されていました。

最後に、お忙しいなか幹事学会挨拶を賜りました青木会長、各学会から参加頂きました運営委員の方々、一般講演ならびに一般参加をいただきました皆様、二日間にわたり受付業務をご担当いただきました本部事務局の松原様、そして、事前準備や当日の運営補助を担当いただいた慶應大学の学生スタッフの皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



深澤直人先生による招待講演の様子



一般講演会場の様子

より、本部会活動における歴史観の重要性と本部会への期待を述べていただきました。つぎに、松岡が、デザイン理論・方法論研究の変遷とフレームワークの必要性を概説しました。そして、ご参加いただきましたデザイン領域の研究者・教育者の方々（Hansung University；Jee 先生、武蔵野美大；小林先生、慶應大；竹村先生、氏家先生）や、実務者の方々（東芝；伊豆氏、加藤氏、エンジニアス；宮田氏、日産；北村氏）より、それぞれのお立場から、デザインサイエンスやデザイン理論・方法論に関するお話を頂きました。デザインの統合化に向けた活動の必要性、そのための基盤構築の重要性、デザインにおける最適化法とその位置づけ、デザイン現場からのフィードバックを可能な理論・方法論構築の重要性など、さまざまな観点からの話題を提供していただき、30 名を越える参加者による活発なディスカッションが行われました。貴重なご意見を賜りました皆様に、改めて御礼申し上げます。



会場の様子

ンガワシステムズの横川耕二氏をお迎えしました。横川氏は、Squeak によるソフトウェア開発などもされています。ワークショップのサポートは、小池情報デザイン研究室の学生 3 名が行いました。パソコンは、大学の MacBook を使用しました。自分の Windows を持ち込まれた方もいました。Squeak は Mac でも Windows でも使用できます。

Squeak は、アラン・ケイ博士らが開発した教育関係でも使用されているフリーソフトです。Squeak には、Etoys という画面上のタイルをドラッグ&ドロップするだけで簡単にプログラムを作る事ができる仕組みがあるのですが、この Squeak をデザイン関連で使用できないか、その応用の可能性を探るのが今回のワークショップの目的でした。午前中は、小池研究室が制作した高校の情報教育で使用するための Squeak のテキスト「Let's Squeak！」を使用して、ライントレースのように、画面に虫を描いて、その虫が画面の道に沿って動くようなプログラムや、ロボットを描いて、ボタンでロボットが移動するようなプログラムを制作しました。午後は、横川氏のオリジナルのプログラムで、他のプログラムの例題にあるような「ブロック崩し」を制作しました。あらかじめ用意した部品を使用して、壁やラケットを作って、それらに関連づけていきました。

参加者たちは、様々なバックグラウンドを持っていましたが、Squeak を学ぼうと積極的に取り組んでいました。

このワークショップを通して、Squeak をデザインに取り入れる意義を考えました。Squeak は、デザイナーにとって、オブジェクトの動作のアルゴリズムを考えるのに有効ではないかと思います。Squeak はオブジェクトを描いてそれに動作を与えます。オブジェクト同士の相互の関係を決めて、全体としてのプログラムの動作を構築していくのが視覚的に見えるのです。Squeak は、テキスト主体のプログラミング言語と比べてデザイナーの思考に近く、取り組みやすいです。ワーク

D T M 研究部会活動報告

主査 松岡由幸

平成 20 年 11 月 23 日（日）、24 日（月）の両日にわたり、ホテルグリーンプラザ軽井沢を会場として、デザイン理論・方法論研究部会（D T M）の 2008 年度第 2 回活動：『デザイン塾：車座の会、デザインサイエンスのフレームワーク』が開催されました。

本会では、はじめに青木弘行会長

情報デザイン研究部会活動報告

主査 小池星多

平成 20 年 10 月 19 日（日）、神奈川県横浜市にある、武蔵工業大学環境情報学部横浜キャンパスにおいて、日本デザイン学会情報デザイン部会の主催で「第 1 回 Squeak ワークショップ」が開催されました。参加者は、元大学教授、大学教員、高校教員、大学生、高校生など 10 名が参加しました。講師はエ

ショップに参加された皆様、講師の横川氏、お疲れさまでした。このワークショップは、今後も情報デザイン部会で継続予定です。

<関連 Web >

- スクイークランド
<http://squeakland.jp/>
 Squeak をダウンロードできます。
- SuperSwiki2
<http://squeakland.jp/seaside/SBSuperSwiki>
 今回のワークショップの参加者の作品が公開されています。
- エンガワ
<http://www.yengawa.com/>
 横川氏のサイト
- Squeak で学ぼう
<http://www.yc.musashi-tech.ac.jp/~design/squeak/>
- index.html
 小池情報デザイン研究室による Squeak のチュートリアルサイト。Squeak のテキスト Let's Squeak ! や、サンプルをダウンロードできます。YouTube による、Squeak のビデオチュートリアルもあります。



ワークショップの様子

第2支部活動報告（第1報）

第2支部長 君島昌之

平成20年9月13日（土）、川崎市の東芝科学館を会場として、日本デザイン学会第二支部の2008年度第1回活動：「近代産業とデザイン史：製品開発を支えたデザイン活動の系譜」が開催されました。本活動には、大学・専門

学校の教員、企業関係者、学生をはじめとする40名近くの方々にご参加いただきました。

はじめに、科学館内の見学ツアーが実施されました。本ツアーには、一般公開されていない貴重な製品コレクションの見学も含まれており、参加者の方々には好評をいただいたようでした。つぎに、科学館のセミナールームに会場を移し、君島による本活動の開催にあたっての挨拶の後、科学館館長の三浦明氏より、ご挨拶および第二支部の今後の発展に向けたエールをいただきました。つづいて、科学館の小宮雅紀氏より、収蔵品の紹介とからくり人形のデモンストレーションが行われました。参加者の方々も壇上に上がり間近で見学することができたため、会場は大変盛況となりました。そして、第二支部の副支部長である伊豆裕一氏より話題提供をいただき、近代産業とデザイン史のセミナーが行われました。ディスカッションでは、これからの製品開発におけるデザインの役割等をテーマに、参加者の方々による活発な議論が交わされました。さいごに、日本デザイン学会会長の青木弘行先生よ



製品コレクション見学の様子



収蔵品紹介の様子



セミナーの様子

りご挨拶をいただき、盛況のうちに本活動を終えることができました。

会場の提供や見学ツアー、デモンストレーション等でご尽力をいただきました東芝科学館の皆様、運営補助を担当していただいた慶應義塾大学の学生スタッフの皆様、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。

第5支部活動報告

第5支部長 青木幹太

第5支部では、平成20年10月25日（土）、九州大学大橋キャンパスにて、日本デザイン学会平成20年度研究発表会・懇親会を開催しました。この研究会・懇親会は支部活動の活性化と充実を目指して、第5支部会員を含む全ての参加者に、大学や研究機関、企業等の枠を超えて、デザイン学および関連する領域の交流の場を提供することを目的としています。

研究会は、口頭研究発表、ポスター研究発表、学生作品プロポジションで構成され、口頭研究発表は全国大会に準じた規定で各2ページの発表概要の投稿を求め、発表当日の進行も全国大会と同じように行いました。口頭研究発表は昨年より4件増えて28件あり、発表を3会場に分けて実施しました。ポスター研究発表は2件で、1件は神奈川県からの参加でした。学生作品プロポジションは7件の発表があり、当日参加者のほとんどが発表会場に集まったこともあって、学生のプレゼンテーションテクニックの向上や意見交

換のよい機会となりました。

研究発表では、大学の教員や大学院生のほか、専門学校より2件、企業より2件の研究発表があり、遠方の拓殖大学より1件の研究発表があるなど、参加者の範囲が広がってきているように思いました。発表の内容はデザイン計画、デザイン評価、デザイン教育、デザイン史、デザインマネジメント、情報デザイン、景観デザイン、プロダクトデザイン、ユニバーサルデザイン、地域振興など様々な領域に及び、活発な意見交換が行われました。本年度の参加者は、会員28名、非会員（学生を含む）61名の計89名でした。

研究会後に行われた懇親会では、老若男女、学生から重鎮の先生まで、和気あいあいとした雰囲気の中で親睦を深めることができました。特に研究者を目指す学生にとって、他大学の教員や学生との交流はおおいに刺激になったことと思います。

本研究会の内容は「日本デザイン学会第5支部平成20年度研究発表会概要集」としてまとめられています。実行委員として第5支部の活動を推進していただいた第5支部の理事・幹事の皆様に、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。



学生作品プロポジション会場の風景

平成20年度学会各賞 選考結果報告

学会各賞選考委員会
委員長 宮崎 清

本年度の学会各賞選考に係わる経過ならびに結果を、ご報告いたします。

平成20年度学会各賞選考委員会は、青木弘行、庄子晃子、杉山和雄、鈴木邁、中嶋猛夫、原田昭、松岡由幸、宮内愨、宮崎清、森典彦の10名で構成され、互選の結果、宮崎が委員長を務めることとなりました。

【選考経過】

まず、例年のように、学会誌「デザイン学研究」ならびに学会ホームページにおいて、会員各位より学会各賞候補の推薦依頼を行いました。同時に、論文審査委員会、作品集編集委員会、学会各賞選考委員会にも、推薦の依頼をいたしました。その結果、研究奨励賞3件、年間論文賞4件、年間作品賞1件の推薦がありました。

これらを受け、学会各賞選考委員会では、推薦のあったものそれぞれにつき3名以上の精査委員(A)を決定し、その結果を書類にして委員長に提出することとしました。委員(A)より提出された精査結果は、1件を除き、委員(A)による判断の相違はありませんでした。判断に相違が生じた1件については、委員(A)とは異なる委員(B)に新たな精査を依頼し、その結果を委員(A)に伝え、委員(A)から互いの判断に相違のない統一的な精査結果をいただきました。

学会各賞選考委員会は、各賞の選考に際し、前年度までがそうであったように、本年度においても「全員一致」を旨としました。そこで、委員長は、メール、ファックス、委員会召集等を通じて、委員長に届いた選考結果・事由等が記されたすべての書類を全選考委員に閲覧・検討していただきました。その結果、下記に示すように、研究奨励賞2件、年間論文賞2件が、学会各賞選考委員

会案として「全員一致」でまとまりました。なお、その案は、学会長に書面で提出後、理事会にて最終的承認をいただきました。

【選考結果と事由】

・研究奨励賞：氏家良樹 「マクロ形状情報の解明とデザインへの応用」

氏家氏は、一連の研究を通して、曲率形状の複雑さを物理量で相関づけることの意義を示したうえで、物理量としての曲率エントロピーや曲率積分を用いたときの成果を考察し、次いで、デザインへの応用として複雑さを制御する形状生成法の問題点と解決法を提案している。制御は必ずしも十分ではないが一連の研究は先駆的であり、今後複雑さ以外の評価概念の定量化へと進むことが期待される。

・研究奨励賞：長井千春 「ドイツ文化圏における磁器産業デザイン振興」

長井氏は、日本における磁器産業振興のあり方への探究を基底に据えて、ドイツ語による数多くの現地資料の採集・読み取りを通して、磁器産業としては必ずしも先端的ではなかったドイツ文化圏における磁器産業の様相を明らかにするとともに、その振興に向けての諸活動を克明に分析・考察している。同氏が掲げた視点からドイツ文化圏における磁器産業振興の様相を詳述した一連の研究は先駆的であり、加えて、美濃焼産地におけるテーブルウェアデザイン開発を自ら実践している点も高く評価される。

・年間論文賞：菅靖子「今井和子と自由学園工芸研究所にみるモダニズム期日本の工芸産業」

本論文は、今井和子が中心的な役割を担った自由学園における工芸活動について、留学から帰国後の自由学園における活動を軸に、工芸産業、ジェンダー、ナショナリズムの3つの観点より、日本近代デザインの展開を論じている。留学先のデザインへの意識の相違とそれへの今井の対応、自由学園での活動成果と展示会での発表が芸術家や政府を動かし国際博へと展開してい

く様子の叙述は具体的で奥行きが深く、わが国のモダンデザインの歴史に関する価値ある研究論文である。

・年間論文賞： Shyu-der UENG,

Kiyoshi MIYAZAKI

“INNOVATION OF LOCAL CULTURE AND VALUE”

台湾中部のPuli（埔里）における地域振興デザインの過程を詳述した本論文では、当該地域の歴史的・生活文化的資源の精査と評価、さらには、住民集会における共同の認識形成、それに基づく地域住民によるデザイン改良・開発等が、筆者らの当該地域住民との協働実践に基づき、具体的に紹介・解析されている。上からの主導ではない、地域住民による内発的地域づくりの方法論とその実践過程を浮き彫りにした価値ある論文である。

【選考を終えて】

本年度も会員の皆様より各賞候補の推薦をいただき、ありがとうございます。なかには、自薦の推薦書を学会事務局に提出された方もおいででした。ご自分がなしたことをぜひ評価してほしいとの思いからでしょう。その積極的姿勢は、本選考委員会においても高く評価されました。また、推薦書をお書きくださった会員には、心から感謝申し上げます。推薦書をしたためるには、当然のことながら、候補者がなした論文・作品等に眼を通され、そのうえで推薦事由を明記するのですから、手数がかかることだからです。

論文・作品等が数多く発表されるとともに、そのなかにとりわけ秀でた論文・作品が存在することは、学会として大切なことです。推薦書をお書きくださった方は、その秀でた論文・作品の発掘にご尽力いただけたのですから、深甚なる敬意を表したいと存じます。

その意味では、来年度には、今年より以上に、多くの会員諸氏から各賞候補の推薦が寄せられることを大いに期待いたします。

また、本年度は、学会賞、学会特賞の受賞者はありませんでした。安易に

賞を乱発することは厳に避けねばなりません、会員諸氏の論文・作品の成果がそれぞれに蓄積され、学会賞、学会特賞の授与に繋がることを、期待したいと思います。

なお、規定により、いずれの賞も、学会誌「デザイン学研究」（論文集・作品集）に掲載されたものを選考の対象としています。その意味で、学会誌への投稿が大幅に拡大されていくことが、学会活動の活性化を示すとともに、各賞受賞の幅を伸張していくことに繋がります。本委員会としても、日ごろの研究成果をまとめて積極的に投稿くださるよう、会員諸氏に呼びかけます。

日本デザイン学会

平成20年度学会各賞選考委員会

委員長 宮崎 清

委員 青木弘行

庄子晃子

杉山和雄

鈴木 邁

中嶋猛夫

原田 昭

松岡由幸

宮内 愨

森 典彦

献本御礼

◆寄贈図書

- ・近代工芸運動とデザイン史，デザイン史フォーラム編（藤田治彦責任編集），思文閣出版
- ・生とデザイン～かたちの詩学Ⅰ～，向井周太郎，中公文庫
- ・デザインサイエンス～未来創造の“六つ”の視点～，デザイン塾監修，松岡由幸編著，丸善
- ・最適デザインの概念，松岡由幸／宮田悟志，共立出版（株）
- ・造形デザインのための 注意のスイッチ 観察・思考・創案にむけて，吉原直彦，（株）昭和堂

◆機関誌

- ・たまびNEWS Autumn2008 No.51，多摩美術大学広報第51号
- ・KUMAGAI UPDATE 65 「関電トンネル」開通50周年，（株）熊谷組，2008
- ・FUKUI CONVENTION EXPRESS vol.8，（財）福井観光コンベンション協会，2008
- ・OCTB 大阪コンベンションニュース vol.118，（財）大阪観光コンベンション協会，2008
- ・木の文化FORUM第5号，木の文化フォーラム編集委員会，2008

◆予稿集・論文集・報告書

- ・デザインシンポジウム2008講演論文集，共催：日本デザイン学会（幹事学会）／日本機械学会／日本設計工学会／日本建築学会／精密工学会／人工知能学会
協賛：International Association of Societies of Design Research/The Design Society/ 横断型基幹科学技術研究団体連合
- ・平成20年度工学・工業教育研究講演会講演論文集，（社）日本工学教育協会
- ・造形学研究所所報04，愛知産業大学造形学部，2008
- ・学会横断型アカデミック・ロードマップ報告書，（株）KRI/ 横断型基幹科学技術研究団体連合，2008.3

会員の移動

◆平成20年度第4回理事会承認

2008.10.14

<新入会>

*正会員 19名 (内, 外国人5名)

赤嶺 雅 五十嵐 信
今西 英 牛尾 奈緒子
小川 裕子 片山 一葉
加藤 三喜 加藤 亮介
仲嵩 弥愛 町田 由徳
白井 信吾 林田 崇
丸 勝美 師井 聡子
崔 晋海 Tyan-Yu Wu
Chunwei CHEN Cheng-Mei Hsu
TAI-SHEN HUANG

<退会>

*正会員 10名

市川 幸延 井上 直久
遠藤 一男 桑畑 健
曾根崎 薫子 土屋 貴幸
中川 志信 西尾 純子
二神 元 三室 満里子

*賛助会員 1件

三洋電機(株) マーケティング本部
アドバンストデザインセンター

*年間購読会員 2件

東海大学文明研究所 宮城県美術館

◆平成20年度第5回理事会承認

2008.11.01

<新入会>

*正会員 14名 (内, 外国人2名)

安部 泰 安城 寿子
井藤 隆志 此川 祐樹
為我井 敦史 橋田 規子
伴 秀之 前川 正実
増田 英之 松尾 毅
三隅 雅彦 柳井 謙一
林 海福 Po-Sung Hung

*賛助会員 1件

インタラクシオンイニシアティブ(株)

<退会>

*正会員 4名

石野 眞 久下 靖征
柴田 友馬 平田 稔

訃報

本学会の理事等を務めてこられました大平智弘先生(武蔵野美術大学教授)が、12月8日(月)、ご病気のため63歳で逝去されました。長年に亘って本学会のためご尽力いただいた大平先生には、12月20日の理事会において名誉会員に推挙され、決定いたしました。謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

第56回春季研究発表大会

オーガナイズドセッション テーマ募集!

平成21年度第56回春季研究発表大会において開催される「オーガナイズドセッション」のテーマを募集いたします。

応募にあたっては、①セッションのテーマ名、②セッションの内容、③パネラーの氏名・所属、④代表者名、以上を下記宛、メールにてお送りください。

応募締め切りは、平成21年3月2日(月)とさせていただきます。奮ってご応募くださるようお願いいたします。

応募先：企画担当理事 古屋繁

(拓殖大学工学部工業デザイン学科)

sfuruya@id.takushoku-u.ac.jp

事務局からのお問い合わせ!

平成20年4月21日、三井住友銀行・荻窪支店より、年会費¥13,000-のご送金をされた方、振り込み人名が日本デザイン学会となっており、入金処理ができないでおります。お心当たりの方はご連絡下さいますようお願い申し上げます。

急告

期間（平成21年度）限定 大学院生の新規入会に対する入会金免除のお知らせ

日本デザイン学会
会長 青木弘行

新年を迎え早くも一月が過ぎましたが、会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察申し上げます。

この度、日本デザイン学会では昨今の社会状況を踏まえ、次代を担う若手研究者の育成を急務と考え、新たな試みとして、平成21年度内に正会員として入会を希望する大学院生（修士課程、博士課程）の「入会金」を免除することといたしました。

会員の皆様におかれましては、この期間限定措置を活用して入会をお奨めくださいますよう、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

なお、平成21年度から正会員としてすでに入会を承認されている大学院進学予定者や大学院在籍学生の方々は、上記入会金免除の手続きをとらせて頂きますので、本部事務局までお申し出下さい。

日本デザイン学会 本部事務局
電話：03-3301-9318
ファックス：03-3301-9319
jssd@mx10.ttcn.ne.jp

JSSD 日本デザイン学会
第56回 The 56th Annual Conference of JSSD

春季研究 発表大会

「想像」する「創造」
人間とデザインの新しい関係

名古屋市立大学 芸術工学部
北千種キャンパス

2009年6月26日(金)～6月28日(日)

主催：日本デザイン学会 URL: <http://www.jssd.jp/>
共催：名古屋市立大学、名古屋市立大学 URL: <http://www.kanriyoto-design.jp/>
会期：平成21年6月26日(金)～6月28日(日)
会場：名古屋市立大学 北千種キャンパス 〒464-0302 愛知県名古屋市中区北千種 3-1-10
(地下鉄オアシス線北千種駅下車徒歩10分 / 地下鉄東山線北千種駅下車徒歩20分)

第56回 春季研究発表大会の発表申込に関するお知らせ

発表申込・概要集編集担当：工藤 芳彰、久保 光徳

平成21年6月26日（金）～28日（日）に、名古屋市立大学（<http://www.nagoya-cu.ac.jp/>）で第56回春季大会が催されます。このうち、27日（土）・28日（日）が研究発表大会となります。研究発表の役割は、質疑応答によって得られる新たな視点や知識の獲得にあります。今回も例年どおり、通常の研究発表（口頭発表とポスター発表）の他、部会統括の口頭発表（テーマセッション）や優秀な研究発表に対する表彰を設定する予定です。奮ってお申し込み下さい。なお、発表要領や概要フォーマット等の詳細は2月初旬に学会ホームページ（<http://www.jssd.jp>）に掲載の予定です。各自ご確認のほどよろしくお願いいたします。

発表申込に関する概要

申込受付期間：平成20年3月11日（水）～25日（水）

申込方法：学会ホームページ経由 J-Stage 利用

発表形式と時間（予定）：口頭発表20分（含む質疑応答）、ポスター発表（1時間）

概要形式：A4・2ページ（英文概要の場合は日本語要約を掲載）

※ 原則として期限を過ぎた申込は受け付けできませんので、ご承知おき下さい。

なお、Web投稿が出来ない方は本部事務局（jssd@mx10.ttcn.ne.jp）にご照会ください。

テーマセッションについて

テーマセッションは、部会がテーマや発表順等を統括する口頭発表枠です。どの部会が参加しているのか、どのようなテーマが提示されているのかについては、2月中旬に学会ホームページ上で公開予定です。参加をご希望の方は、専用サイトでの発表申込の際に「発表分野」のプルダウンメニュー中に部会名とテーマが列記されますので、該当するものを選択してください。

発表申込後のスケジュール

発表採否の連絡：4月中旬予定

発表日時と会場のお知らせ：5月中旬予定

ホームページ上での概要公開：6月上旬予定

お問い合わせ先：jssd@id.takushoku-u.ac.jp

以上